

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[43]歳、勤続年数[21]年、現場経験年数[9]年、階級[消防士長]、同様の活動[頻繁]、任務[車長]
○当事者B	年齢[31]歳、勤続年数[8]年、現場経験年数[6]年、階級[消防副士長]、同様の活動[頻繁]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[20]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[0.5]年、階級[消防士]、同様の活動[頻繁]、任務[隊員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	傷者(DE)、二次事故傷者(FG)

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	DE	交通事故を起こし救急要請	
経過2	ABC	救急出場し傷病者と接触	
経過3	ABC	傷病者をバックボードで救出	
経過4	FG	停車中の軽トラックに軽乗用車が衝突	
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



- 負傷事故の場合：負傷事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・ 活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・ 活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・ 活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・ 体調が悪かった。	いいえ
・ 悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・ 装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・ 必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・ 狭隘な場所であった。	いいえ
・ 暑かった（寒かった）。	いいえ
・ 野次馬が多かった。	はい
・ 現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・ 足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・ 足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・ 指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・ 隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・ 隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

はい：交通事故現場での警察との連携が曖昧で、意思疎通が図られていなかった。

